

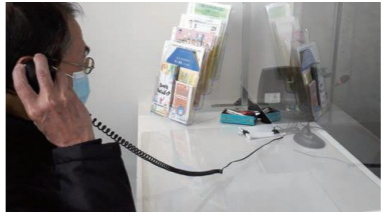
学齢時の眼鏡の補助、耳の聞こえを補助するヒアリンググループの導入を

Q 学校保健統計で、裸眼1.0未満の小学3年生は3人に1人。中学生で6割という結果だった。眼鏡が必要な子どもに、眼鏡購入補助をしてはどうか。

A 子どものうちに、適切な生活習慣を身に付け視力を維持、低下させないことが大事だ。補助は考えていない。

Q 聞き取りを補助するヒアリンググループを窓口等に整備してはどうか。

A 障がいのある人もない人も共に自分らしく暮らすためのまちづくり条例の趣旨を踏まえ集団補聴システムを設置、活用すべきが研究したい。



ヒアリンググループを用いた窓口対応

県央基幹病院開院後の2次救急病院充実を

Q 県央基幹病院開院後も、済生会三条病院を救急車を受け入れる2次救急病院として存続させてはどうか。

A 限られた医療資源を有効に活用す

燕三条経済特区について

Q 燕三条駅周辺を地元独自の税制的な優遇策を適用させる等「燕三条版経済特区」として民間投資を呼び込む必要があると考えるが、見解を伺う。

A 燕市にまたがる地域であり、両市でそれぞれ用途地域の指定があるため、今後の研究課題とする。

自動運転バス導入について

Q 大学と専門学校が立地し、県央基幹病院開院も迫り、今後ますます人が集まるこの地を周回する「自動運転バス」を導入し、利便性の確保とともに、燕三条の玄関口としてシンボリックな駅前を整備すべきと思うが、見解を伺う。

A 他自治体や大学等で実証運行が行われ、知名度向上による経済活性化等のメリットはあるが、課題もあるため、先行事例については引き続き注視していく。



茨城県境町で運行している自動運転バス

るための医療再編であり、これまでの機能の維持など見直しは求めない。

内山信一議員の質問

Q 現在の国際情勢ではわずか数分にして日本がミサイル等を受ける側になり得るとも予想される。その際の市の対応について伺う。

A ミサイルが日本に落下する可能性がある場合には、国がJアラートを活用して防災行政無線による放送や、携帯電話等による緊急速報メールを配信するなど、住民に緊急情報を瞬時に伝達する仕組みになっている。

三条市の急激な人口減少の対策について

Q 市では職業教育をどのように行っているか。また、結婚の奨励についてどのような見解か。妊娠中や産後の休暇中、育児休業中の仕事代行サービスの制度があるかと思うがどうか。

A 小中学校や義務教育学校においては社会科や総合学習等の中で職業学習、職場体験学習を行っている。結婚

ふるさと納税について

Q 市長の手腕で大きな金額となったふるさと納税をさらに増やしていくため、三条を实际に訪れて体験していただく「体験型返礼品」を拡充し、「三条のファン作り」に力を入れるべきだと考えるが、見解を伺う。

A 議員指摘の通り、シティセールスの観点からも体験型の拡充は大変重要。魅力的な体験型返礼品が増加するよう努めていく。

藤家貴之議員の質問

Q 人口の地域格差がもたらす生活への影響について。

A 栄地域、下田地域の全自治会で意見交換等を行っている。また、下田地域では、辺地総合整備計画や過疎地域持続的発展計画に基づき、ハード整備、地域の担い手を確保するソフト事業にも取り組んでいる。

限界集落の現状と対策について。

A 高齢化率が人口の50%を超えている自治体は複数あるが、社会的共同生活の維持が困難と言える現状にはないと捉えている。人口減少の抑制と担

の奨励について、新たな婚活イベント等は考えていないが、中古を含む住宅購入の支援を予定している。仕事の代行サービスについて、実施の予定はない。

「選びたくなるまち三条」を目指して

Q 小中学校の給食費無償化を新年度も続けてはどうか。また、スクールバス運行規則を弾力的に運用していただきたいと思うが、どうか。

A 給食無償化は考えていない。スクールバスは、原則として基準に基づく運用を行う。

長橋一弘議員の質問

三條版オリパラ疑惑(ヘルス・トラディショナルズ・アー契約先A社の嫌疑、河北新報社報道)に関して

Q 河北新報社報道記事。①A社は企業版ふるさと納税制度を悪用して福島県のある町で問題を起している。

②A社は自社製のゼリーをオリジナル製品ということで2.5倍の値付けをして1500万円で2万個を売り抜いた。監査役から高い買い物だと

い手確保に注力し、行政が共に考え対策に取り組む。

限界集落への短期的な取り組みについて。

A 地域外からの新たな担い手を確保するため、空き家改修補助金の改修費増額、地域加算を支援強化していく。

市の花「ひめさゆり」について

Q ひめさゆり管理の支援体制、技術支援は今後どのように行っていくのか。

三条市の花「ひめさゆり」

燕幸男議員の質問

牛ヶ島踏切の拡幅改良について

指摘されている。

③ A社は高規格救急車を一般競争入札相場の2倍にも当たる価格の3000万円で12台売り付けた。他の自治体でも同様の事例がある。

④ A社は小中一体校〇〇学園構想を打ち出した後、ある町議会でかんかんがくがくの議論になっている。

⑤ A社は宮城県のある町で総事業費約41億円で被災地復興巨大プロジェクトを打ち出したのだが、個別事業の多くが暗礁に乗り上げ画餅になりつつある、この報道があるが感想は。

Q 道義的責任をどう考える。高いご見識と豊富な経験をお持ちの当事者である副市長にお聞きする。

A 係争中のため答弁は控える。



Q 踏切が狭小のため大型車両の通行が禁止されている。拡幅改良に向けた取り組みはどうなっているのか。

A 現在、測量および設計を行っている。市として一日も早い工事着手に向けJR東日本に働き掛けていきたい。



JR信越本線の牛ヶ島踏切

Q 拡幅することにより交通量の増加が見込まれる。大崎学園の児童生徒の通学路でもある交差点は交通事故の多い危険な場所である。その交差点を含め、三条市全域の通学路の危険箇所の安全対策はどうなっているのか。

A 交通ルールの遵守や横断歩道の渡り方等の交通安全指導を徹底するよう全市立学校に通知し通学路の安全確保に努める。

奨学金返還支援制度の充実について

Q 同制度は自治体や企業が貸与奨学金の返済を肩代わりすることで、若者の定住促進や若者の働き手の確保に寄与するものと考えられる。そのこ